

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：稼働率・生産能力指数(9月)
～ 生産能力も少し増えてきました ～

発表日：11月11日(金)

(No. J - 161)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)

(単位：%)

		稼働率指数						生産能力指数					
		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械		製造工業		電子部品・デバイス		輸送機械	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
04	1-3月	0.1	6.0	0.3	13.3	▲ 1.5	3.7	▲ 0.5	▲ 1.7	0.8	2.5	▲ 0.1	▲ 1.2
	4-6月	1.9	5.7	0.6	15.3	4.3	6.5	0.1	▲ 1.0	4.2	5.5	▲ 1.9	▲ 2.4
	7-9月	0.3	5.6	▲ 4.6	2.7	▲ 0.7	5.2	▲ 0.1	▲ 0.7	1.5	7.3	▲ 0.7	▲ 2.7
	10-12月	▲ 0.2	2.2	▲ 5.0	▲ 8.5	0.3	2.9	0.0	▲ 0.5	2.5	9.3	0.1	▲ 2.6
05	1-3月	0.9	1.6	1.7	▲ 8.4	3.4	5.9	▲ 0.3	▲ 0.3	0.3	8.7	1.0	▲ 1.5
	4-6月	1.6	2.6	0.5	▲ 7.3	1.1	4.0	0.0	▲ 0.3	1.3	5.7	▲ 0.2	0.2
	7-9月	▲ 1.7	0.5	3.6	0.7	▲ 5.8	▲ 1.4	0.3	0.1	1.7	5.8	0.4	1.3
04	1月	2.5	4.8	▲ 0.2	12.8	1.5	▲ 0.9	▲ 0.4	▲ 1.8	▲ 0.3	1.4	▲ 0.1	▲ 1.8
	2月	▲ 4.0	5.5	▲ 3.3	11.9	▲ 3.3	2.0	▲ 0.1	▲ 1.7	0.0	1.4	0.0	▲ 0.9
	3月	0.9	7.5	2.5	15.0	2.5	9.3	0.2	▲ 1.5	2.8	4.8	0.0	▲ 0.9
	4月	2.7	6.7	▲ 0.1	15.2	4.5	9.8	0.2	▲ 1.0	1.3	4.6	0.0	▲ 0.8
	5月	0.0	3.1	1.3	15.8	▲ 2.3	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 1.2	1.4	5.5	▲ 3.1	▲ 3.4
	6月	▲ 0.1	7.2	▲ 1.9	14.9	2.4	9.9	0.1	▲ 0.8	0.0	6.5	0.5	▲ 2.9
	7月	0.4	4.7	▲ 3.0	5.4	▲ 1.5	3.6	▲ 0.1	▲ 0.8	0.8	7.3	0.0	▲ 2.9
	8月	0.2	8.4	1.7	7.0	▲ 1.5	6.1	0.1	▲ 0.7	0.3	7.5	0.0	▲ 2.9
	9月	▲ 0.5	4.1	▲ 5.7	▲ 3.8	3.1	6.1	0.0	▲ 0.7	0.2	7.2	0.2	▲ 2.5
	10月	0.0	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 7.4	▲ 0.5	▲ 0.9	0.0	▲ 0.5	2.1	9.2	0.0	▲ 2.5
	11月	0.8	5.6	▲ 2.6	▲ 8.3	1.5	10.0	0.0	▲ 0.5	0.1	9.5	0.0	▲ 2.5
	12月	▲ 1.4	1.2	0.7	▲ 9.9	▲ 5.1	▲ 0.3	0.0	▲ 0.4	0.3	9.3	▲ 0.1	▲ 2.6
05	1月	3.1	1.6	2.7	▲ 9.0	6.8	5.3	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.3	9.4	1.1	▲ 1.5
	2月	▲ 1.7	1.8	▲ 0.7	▲ 8.1	▲ 0.4	7.2	0.0	▲ 0.1	0.3	9.7	0.0	▲ 1.5
	3月	▲ 1.2	1.4	▲ 0.5	▲ 8.3	0.1	5.2	▲ 0.1	▲ 0.4	0.4	7.1	0.0	▲ 1.5
	4月	4.3	2.6	2.5	▲ 6.8	5.7	5.6	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 0.8	4.9	0.0	▲ 1.5
	5月	▲ 2.3	2.9	▲ 3.4	▲ 9.4	▲ 7.5	4.4	0.3	0.0	2.3	5.8	▲ 0.2	1.4
	6月	0.6	2.3	3.0	▲ 5.8	2.6	2.3	0.0	▲ 0.1	0.5	6.3	▲ 0.1	0.8
	7月	▲ 1.6	▲ 1.0	0.8	▲ 3.0	▲ 4.4	▲ 2.9	0.0	0.0	0.0	5.5	0.0	0.8
	8月	0.4	1.7	3.6	0.7	▲ 2.8	0.1	0.1	0.0	0.8	6.0	0.0	0.8
	9月	0.1	1.0	▲ 1.2	4.5	4.2	▲ 1.0	0.3	0.3	0.2	6.0	1.8	2.3

(出所)経済産業省「鉱工業指数」

○ 生産能力指数が前年比プラスに

9月の稼働率指数は前月比+0.1%と2ヶ月連続の上昇となった。10月の生産予測指数が前月比+2.4%と高い伸びとなっていることから考えると10月の稼働率も3ヶ月連続での上昇が見込めるだろう。稼働率は、消費税引き上げ前の駆け込み需要で好調だった97年前半とほぼ同程度の高水準での推移が続いている。

こうした高水準の稼働率が足元で能力増強投資に繋がっている。これまでの設備投資は更新投資が多くを占めており、企業が積極的に設備の除却を進めてきたこともあって生産能力の拡大は見られてこなかったのだが、9月の生産能力指数は前年比+0.3%と遂にプラス圏に入ってきた。生産能力指数が前年比でプラスとなるのは実に1998年5月以来のことである。業種でみると、今のところ電子部品・デバイスのプラス寄与が大きい。その他の業種でも生産能力指数のマイナス幅は徐々に縮小してきている。輸送用機械や一般機械などでは稼働率水準は極めて高く、フル稼働に近い状態にあるため、仮に今後生産を拡大しようとするれば、能力増強投資を行って生産能力を拡大するしかない。今後も、年末にかけて生産が回復を明確化させてくると予想されるなか、能力増強投資も増加が続くとみられることから、生産能力指数は緩やかに増加を続けていくと考えられる。足元で設備投資が好調に推移している要因としては、バランスシート調整の終息や

底堅い企業収益などが挙げられるが、その他にも、こうした稼働率の高まりと能力増強投資の持ち直しといった要因も大きい。

もともと、能力増強投資の増加は足元の設備投資の高い伸びにつながる一方で、先行きに関してはストック調整圧力を強めることにつながる可能性があることには注意が必要だ。もちろん、現在のように生産能力指数が低水準にあるなかではこうした問題は顕在化せず、当面、ストック調整圧力が高まる状況にはならないだろう。だが、機械受注や設備投資計画などから予想されている通り、仮に今後も設備投資が高い伸びを長期間続けることになれば、徐々にそうした下押し圧力も高まっていくことになる。この場合、さすがに2006年度下期頃には設備投資が減速するリスクがあるだろう。設備投資のストック循環は企業の期待成長率の動向に大きく依存するため、現時点ではっきりしたことは言えないが、先行きのリスク要因として認識しておいた方が良さそう。

○ 生産は小幅上方修正

同時に公表された9月の鉱工業生産指数確報は前月比+0.4%と、速報段階の同+0.2%から小幅上方修正された。この結果、7-9月期は前期比▲0.2%（速報段階：同▲0.3%）となった。なお、4-6月期、7-9月期と2四半期連続でマイナスだが、これは「鋼船」の統計上の攪乱要因によるものであり、この要因を除けば両四半期とも小幅増加となる。前期比でマイナスになったことを特に気にする必要はない。

また、仮に予測指数通り（10月前月比+2.4%、11月同+1.9%）で推移すれば（12月は横這いを仮定）、10-12月期は前期比+4.3%と大幅な増加となる。実現率のマイナス傾向を勘案したとしても、10-12月期がはっきりとしたプラスになることはほぼ間違いない。鉱工業生産は10-12月期には伸びを明確化させてくると思われる。

